

アンネの日記関連の書籍が破られた、あの出来事はいったいなんだったのだろう。アンネの日記帳の写真がわが家の一隅に置かれて、気が付けば四半世紀がたっていた。アンネが13歳の誕生日に、父オットーから贈られた日記帳である。ユダヤ人ゆえに、戦争がゆえに、ドイツナチスの迫害を受け、2年余の隠れ家生活の中で書かれた日記や童話が、アンネ特有の美しい文字でびっしりとつづら

れている。想像するたび私は胸が痛む。オランダの收容所から家畜用貨車でアウシュビッツに送られ、そこで母エーディトが亡くなった。2カ月後、アンネ姉妹はドイツのベルゼン收容所へ。飢えと寒さとまん延するチフスで、姉のマルゴットが2月に、3月にアンネが亡くなった。命がけで隠れ家の8人を守った人々がいたことを忘れまい。

25年前、欧州旅行の途中、期せずしてアンネ・ハウスを訪れることができた。運河沿いの狭い間口を入って急な階段を上ると回転本棚がある。秘密部屋の入り口である。洗面台やストーブの上のフライパンなど、息遣いが伝わってくる。アンネの部屋には、映画スターやギリシャ彫刻の写真、アンネ姉妹の鉛筆絵などが貼られていた。外に出ることができなかったアンネが、窓越しにそっと見てい

(松本市波田、古畑博子、65歳)

## アンネの日記帳

点差口

こうさてん